

批判的思考を避ける態度

○森山 慶 (広島大学大学院)

藤木大介 # (広島大学)

キーワード: 批判的思考, 批判的思考態度尺度

急速に変化する現代社会において求められる資質・能力の 1 つとして批判的思考が挙げられる。批判的思考は、何を信じ、何を行うかの決定に焦点をあてた合理的で省察的な思考 (Ennis, 1987) であり、主に態度と能力の 2 つを構成要素として検討されてきた (e.g., 田中・楠見, 2004)。また、田中・楠見 (2007, 2016) は、目標や文脈といった状況変数が批判的思考の使用判断に影響を与え、批判的思考の抑制につながることを指摘している。さらに田中 (2009) は、情報源の信憑性などの外的要因が批判的思考を抑制することを明らかにした。これらの研究は、状況変数や外的要因が批判的思考パフォーマンスに影響を及ぼし、メタ認知的判断により批判的な思考や態度が抑制されることを示唆している。しかし、批判的思考を抑制する要因は、例えば、教師の言うことを盲目的に信じてしまうなど、権威があると認識している対象から与えられた知識を絶対なものとして捉え、批判的思考を積極的に避けようとする態度も影響すると考える。しかし、従来

こうした批判的思考を避けようとする態度については検討されていない。そこで本研究では、平山・楠見 (2004) の批判的思考態度尺度に加え、批判的思考を避ける態度因子も含んだ尺度を作成する。

方 法

調査対象者 大学生 320 名であった。

質問紙の構成 平山・楠見 (2004) の批判的思考態度尺度に加え、批判的思考を避ける態度を表していると考えた質問項目を追加し、批判的思考態度項目とした。また、追加した批判的思考を避ける態度項目との併存的妥当性を見るために認識的信念尺度項目 (野村・丸野, 2014)、および主要 5 因子性格検査尺度 (村上・村上, 1997) の「知性」因子の項目を使用した。

結果と考察

作成した尺度について、因子分析 (最尤法・プロマックス回転) を行ったところ、最終的に 6 因子 38 項目の尺度となった (Table 1)。第 1, 2, 4,

Table 1 批判的思考態度尺度の因子分析 (N=320)

項 目	F1	F2	F3	F4	F5	F6
F1 探究心 ($\alpha=.84$)						
34 さまざまな文化について学びたいと思う。	.75	-.05	.12	-.10	-.01	.07
36 生涯にわたり新しいことを学びつづけたいと思う。	.72	-.08	-.11	-.02	.08	.05
5 いろいろな考え方の人と接して多くのことを学びたい。	.66	-.01	-.03	.13	.02	-.02
37 外国人がどのように考えるかを勉強することは、意義のあることだと思う。	.66	.00	.09	.03	.06	.04
43 役に立つかわからないことでも、出来る限り多くのことを学びたい。	.65	.02	-.06	-.07	.14	.09
15 自分とは考え方の違う人に興味を持つ。	.65	.08	.08	.03	-.10	-.06
7 新しいものにチャレンジすることが好きである。	.55	-.06	-.26	-.03	-.07	-.04
9 自分とは異なる考えの人と議論するのは面白い。	.52	.17	.03	.05	-.09	-.19
20 どんな話題に対しても、もっと知りたいと思う。	.42	-.05	.05	.05	.07	.24
38 自分が無意識のうちに偏った見方をしていないか振り返るようにしている。	.31	.13	.07	.18	-.08	.06
F2 論理的思考への自覚 ($\alpha=.75$)						
27 複雑な問題について順序立てて考える。	-.10	.71	-.18	.01	.17	-.00
25 道筋を立てて物事を考える。	-.16	.64	-.07	.13	.11	.14
26 物事を正確に考えることに自信がある。	-.10	.61	-.26	-.08	.09	-.03
22 考えをまとめることが好きだ。	.13	.58	-.12	-.11	-.01	-.05
13 建設的な提案をしようとする。	.10	.44	.10	-.03	.13	.00
44 誰もが納得できるような説明をしようとする。	.12	.42	.05	.03	.01	.08
F3 責任回避 ($\alpha=.76$)						
45 自分で何かを決断するより誰かに従った方が楽である。	-.05	-.14	.66	.10	.06	.01
19 何か問題を感じる際は、自分に責任が及ばないようにしたい。	-.10	.07	.63	-.14	-.06	.13
24 重大な決定は誰かにしてほしいと思う。	-.02	.13	.62	-.04	.17	.02
3 大きな問題にかかわる議論には加わりたくない。	-.11	-.25	.49	-.05	.03	.01
40 深く考える必要がありそうな場合、それを後回しにする。	.16	-.05	.48	.05	-.04	.05
10 自分に不都合なことは気づかなかったことにする。	.06	.23	.40	-.37	.13	-.23
F4 客観性 ($\alpha=.65$)						
11 物事を見るときに自分の立場からしか見ない。	-.14	-.06	-.07	.74	.12	.07
12 一つ二つの立場だけではなく、できるだけ多くの立場から考えようとする。	.14	.09	.03	.63	.11	.03
42 たとえ意見が合わない人の話にも耳をかたむける。	.18	-.06	.10	.42	.23	.03
16 物事を決めるときには、客観的な態度を心がける。	.17	.25	.31	.41	-.09	-.01
F5 価値や権威への傾倒 ($\alpha=.74$)						
6 立場が上の人の意見を尊重する。	.15	.07	.13	-.02	.64	-.14
4 どんな場合でも、社会的に決められたルールに従おうとする。	-.09	.05	.03	-.07	.55	.11
35 年齢が上の人の意見には従うべきだと思う。	.10	.03	.04	.04	.55	-.12
32 法律には絶対に従うべきだと思う。	-.06	.06	.11	.04	.47	.03
8 何かの問題を考えると、多数派の意見を重視する。	.09	.03	.22	-.08	.44	.00
29 多数派の意見には逆らいたくない。	-.05	-.02	.32	.04	.41	.02
39 自分の意見が多数派だと安心する。	.02	.06	.35	.08	.39	-.02
F6 証拠の重視 ($\alpha=.60$)						
21 判断を下す際は、できるだけ多くの事実や証拠を調べる。	.10	.18	.15	.04	-.07	.59
17 注意深く物事を調べようとする。	.05	.09	.09	.14	-.07	.50
14 結論を下す場合には、確たる証拠の有無にこだわる。	-.08	.33	.18	-.10	-.07	.34
18 分からないことがあると質問したくなる。	.30	-.02	.19	.19	.12	.33
33 何事も、少しも疑わずに信じて込んだりはいしない。	.00	-.03	-.01	.06	-.10	.31

Table 2 併存的妥当性の検討

探究心	論理的思考 への自覚	客観性	証拠の 重視	知識の適用に おける条件性	知識の広い 適用可能性	正当化された 知識の実在性	知性
責任回避	-.30**	-.31**	-.27**	-.16**	.06	-.25**	-.37**
価値や権威への傾倒	-.06	-.11*	-.14*	-.10*	-.05	.18**	-.13*

6 因子は平山・楠見 (2004) と概ね同様の結果になったため、これにならった因子名とした。新たに加わった第 3 因子は「責任回避」、第 5 因子は「価値や権威への傾倒」と命名した。次に、今回抽出された批判的思考を避ける態度因子の「責任回避」、「価値や権威への傾倒」の両因子に対し併存的妥当性を検討するために、両因子の尺度得点と、両因子を除く残りの批判的思考態度の 4 因子、認識的信念尺度の各下位因子、主要 5 因子性格検査尺度の知性因子との間の相関係数を求めた (Table 2)。その結果、一定の妥当性が確認された。本研究において、批判的思考態度として「責任回避」と「価値や権威への傾倒」因子が抽出された。このことは、批判的思考パフォーマンスが抑制される要因として、状況変数に関するメタ認知的判断による要因や外的要因によるものという従来の知見に加え、批判的思考を避ける態度により批判的思考が行われない可能性が示された。